

### 図解 リフォームのお金基礎講座



とじ込み付録

イマトキ家族の  
間取り実例集

# リフォームで実現 魅せる収納 隠す収納

ハガキ・WEBで  
ほしいカタログ  
一括請求

えらべる  
実例&会社  
**50**  
件掲載



実例 本・服・キッチン雑貨…  
モノと暮らす収納上手な家

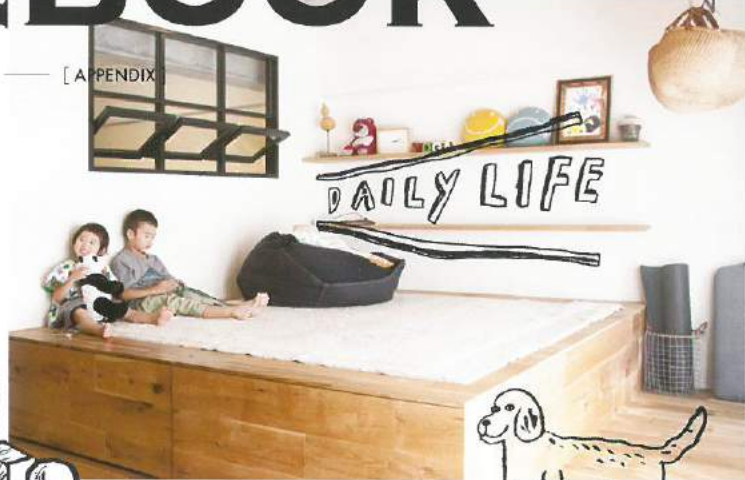
使いやすく美しい  
空間が整うリフォームアイデア25

# ROOM LAYOUT CASEBOOK

2018 WINTER — [ APPENDIX ]



REFORM



It is essential to have a clear picture of your ideal living space in mind in order to accomplish exceptional reform.



And, the floor plan plays an important aspect of achieving the ideal living space.



## イマドキ家族の間取り実例集



満足度の高いリフォームには、どんな暮らしがしたいかをしっかりイメージしておくことが不可欠。

そして、その暮らしを実現するリフォームの要は間取りだ。

イマドキの家族は、どんな間取りを好む傾向が？

家族や友人とのだんらんスペースや、自分の趣味や仕事に集中するスペースなど、イマドキ家族の家づくりを参考にしてみよう

構成・取材・文／竹入はるな 取材・文／浅野真由美、アトリエあふる

撮影／柴田ひろあき、上條泰山、杉浦幹雄、河原大輔

イラスト／竹田匡志 デザイン／ink in inc



## イマドキ家族ってどんな人々？

大塚さん（以下、敬称略） ライフスタイルは、以前とはずいぶん変わってきています。団塊世代では、基本的には女性は家の仕事、男性は外で仕事をするという役割分業をしたモデルが多かったのですが、1997年からは、共働き世帯が専業主婦世帯を上回っている。夫婦2人とも働きながら子育てすることを選択する家族が増えています。生活する中で仕事だけが軸ではなく、仕事と子育て、生活と仕事、生活と趣味など、いろいろなこととの両立が求められています。子どもの人数も2人や3人、一人っ子も多く、子どもをもたない夫婦も多い。以前より選択が多様になっています。

石井さん（以下、敬称略） イマドキの家族は、お互いの距離感が近いですね。私自身は昭和40年代生まれで、反抗期が長い世代なので少なかった気がしますが、今は大学の入学式にほぼ全員の親が来るようです。以前とは、親子の関係が変わってきているってことでしょうか。親の世代も以前とは変わってきているし、近居や同居の数が増えています。背景に共働きがあり、みんなで子育てをすることが自然になっているのでしょうか。

大塚 子育て中は親のそばがよい人もいます。子どもを見てもらうためもありますが、晩婚化が進んでいることもあり、子育てから少したつと親の介護期になり、心配で近くにいてあげたくなる。近距離を選ぶ理由の一つですね。

石井 そう、それらが連続している状況が増えています。

大塚 あと「会社から早く帰って家で過ごす時間を長くもちたい」という20代・30代の人が増えています。40代・50代は帰宅してもする趣味がないと言っている人も多いですが、20代・30代は、家で何をするか、仕事以外の仲間と何をすることが大事なようです。特に共働きだと、忙しい中でやりたいわけじゃない家事の時間は、なるべく圧縮したい。無理なく無駄なく、やりたいことをするための時間を捻出できる家。その仕組みに関心がある人が多いですね。

## イマドキ家族が選ぶ間取りとは？

石井 リフォームの現場では、家庭内でのプライバシーの優先順位が下がっていると感じます。例えば、寝室の広さはベッドさえ入れれば十分、リビングをパーティションで仕切ってベッドだけは見えないようにするのもOKといった具合。個室は小さく、広さはみんなで使うリビング優先で。

大塚 家に広さやゆとりを求める人は増えていますか？

石井 はい。でも家の面積には限りがあるので、体感上広く感じるプランを提案しています。上部が開いたパーティションで空間を仕切れば、天井が続いて見え、部屋が広く感じられるなど。リビングに機能を充実させて、家族が思い思いに広いリビングで過ごすというプランも多いですね。

大塚 それから、家事に取り組む男性が増えています。特に20代は料理男子が多いですね。そのためか、男性もキッチンにこだわりがある気がしますが、どうでしょう。

石井 キッチン、その家族にとって料理とは何なのかが

”家族みんなで過ごすリビングの充実重視で、個室の優先順位が低めです“

ブルースタジオ

石井 健さん

「リノベーション」を一般に広めたブルースタジオの執行役員。施主の話にじっくり耳を傾け、自由で大胆な発想のデザインと百人百様の暮らしを両立させる家を日々提案する。施主は、リノベ前提に初めて中古で家を買う30～40代のファミリーが多いそう



イマドキ家族とはどのような嗜好性があり、どんな家を求めているのか。働き方のコンサルを通じてさまざまな年代のライフを見つめる大塚さんと、多くの家族のオーダーに接し、リフォームのプランを考える石井さんに、イマドキ家族の家づくりについて伺った

反映される場所です。調理だけでなく、子育ての場やパーティースペースだったり。対話しながら決めていきます。  
大塚 対話！これ、キーワードですね。私は、家を買うときに、初めて夫婦で家に対して大事にしていることを話しました。お互いの理解が深まった気がします。

石井 夫婦の考えは違っても、バランスが折り合えばいいんです。最近は、自分たちの暮らしが一つひとつユニークなんだと気が付いている人が増えてきていますね。

大塚 家の中に“自分たちにとって楽しい”って思えることがあると、家に帰りたくなりますものね。

石井 そういう意味では家に求めるモノが複雑になってきています。また、家に子どもが遊ぶ登り棒をつくったり、ハンモックを設置したりと、小さな楽しみを具体化できるのもリフォームの良さです。楽しさとは違いますが、以前は少なかったワークスペースは、最近はマンションなら8割くらいが設けているんじゃないかな。

大塚 今、テレワークがブームで、家で仕事をするスタイルが以前より許容されている。心地いい空間で仕事をするとう生産性が上がります。テレビ会議だと相手に家の中が見えてしまうから、しっかり片付いているといいですね。

石井 もともと、家で起業している人からのSOHOスペースの需要が多かったんだけど、最近はそれ以外の人でも仕事専用のワークスペースをつくる人が多いですよ。

大塚 子どもの勉強スペースはどうですか？

石井 親の視線が届くリビングに学習できる場所をつくりたいというようなニーズも多いですよ。受験の時期などは

もう少しプライバシーが保てる個室などに移ります。子どもの年齢によって変わっていきますね。

大塚 子どもの成長に合わせて、リフォームで勉強スペースの場所を変えるのは大変ですね。柔軟性があるといいな。

石井 そうですね。それは中間領域や多機能性のある空間をつくることで解消できますよ。例えばリビングから離れた廊下にカウンターを設け、静かな勉強スペースとしても使えるようにしておいたり、子どもが小さいうちは家族の寝室として広く使い、子どもが成長したら壁で区切って子ども部屋にするといった具合です。私は、家の中を個室や廊下といった一つだけの機能の組み合わせではなく、この場所ではどんなことをしたいか、というように自由度を高めて考えます。最近は、土間を広い玄関や収納として使う以外に、屋内ガレージのように趣味の場所にする人も増えています。多機能な玄関の一つのカタチですね。

大塚 家と仕事、部屋の役割など、境界があいまいになっているんですね。家は、家族で今の暮らしと未来を考えることが大事だと思いました。まずは長時間労働を解決しないとどんなにすてきな家にしても会話する時間がもてないかもしれないけれど、逆に帰りたい家ができれば仕事を工夫して早く帰宅するという循環ができるかもしれませんね。

——イマドキの家族は仲がいいからこそ、リビングなどみんなで過ごす空間を充実させたり、忙しいからこそ家事に費やす時間を短くして、やりたいことができる空間を求める傾向になるのですね！次のページからは、イマドキ家族が実際に選んだ間取りを見ていきます。

## 対談 イマドキ家族の 家づくり

対談



”20代・30代の若い世代は家の時間を楽しむのが上手。早く帰宅してやりたいことがある。”

ワーク・ライフバランス  
大塚万紀子さん

ライフプランと仕事で充実した日々を両立できないかと模索し、今の会社を立ち上げる。ライフステージや置かれた状況により労働時間の調整を可能にする働き方を提案する同社で、コンサルや講演、執筆などマルチに活躍。自身も2児のワーキングマザー